

平成24年度 委員会行政視察実施報告書


委員会名	産業水道委員会
参加委員	渡辺正博 松山賢太郎 小坂井二郎 児玉将男 内堀勝年 滝沢清茂 安藤友博
	委員長、副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

薬草栽培（地黄）の実態について生産者に直接お話をお聞きし、現地視察しながら薬草栽培を地域活性化に活用できるのかを研究する。

2 実施概要

実施日時	視察先	新得町薬草研究会
平成24年7月4日 15時30分～17時	担当部局	JA新得町営農部（事務局）

視察事業名	薬草栽培
報告内容	<p>1 視察先の概要</p> <p>道東の玄関口である新得町は人口6,648名、面積1,063.8平方キロメートルで、酪農と畑作を基幹産業にしている。</p> <p>特にそばは有名で、全国そば生産優良経営表彰を度々受賞するなど日本一のそばの町として知られている。</p> <p>近年スポーツ関連の各種施設を充実させてスポーツ合宿の里としてPRをして観光産業にも注力している。</p> <p>町のキャッチコピーは 「北海道の重心地」</p> <div style="text-align: right;">  </div> <p>2 視察先の特徴</p> <p>地黄を栽培している新得町薬草研究会は、会員5名。平成23年度生産量は14トン、全て上田市にある製薬会社との契約栽培。最盛期は24トンの出荷実績があり20年間継続栽培中。</p>

1 反当たり 1.5 トンの収穫があり、約 70 万円の収入になる。
今回視察したほ場は新得町薬草研究会 児玉会長のほ場で、地黄栽培面積 4 反（約 4,000 平方メートル・1200 坪）ほとんど高齢のご夫婦だけで栽培している。

3 視察事項について

事前に 18 項目の質問（研修）項目を先方に通知した。

1. なぜ地黄の栽培を始めたのか。またその経緯はどうだったのか。

- ・新得町で地黄栽培を選んだ理由
- ・地黄栽培前は何を植えていて変更した以前と、どのような変化があったのか。
- ・栽培を始めるきっかけや当初の経緯はどうだったか。

2. 新得町薬草の会の構成メンバーや活動はどのようなことをしているのか。

- ・薬草の会の構成メンバーについての説明
- ・現在の薬草の会の活動内容
- ・運営上の問題などはないのか。



新得町薬草研究会 児玉会長

3. 今までの実績はどのようなものなのか。

- ・販売ルートはどのようになっているのか。
- ・いつ頃から始めて毎年どのくらい収穫・収入があるのか。
- ・価格の急激な変化などの外的要因があったのか。またその際の対策は。

4. 活動に関する JA や地元自治体の支援体制について

- ・地黄栽培に関しての JA の役割
- ・地元新得町や北海道庁などの公的な支援はあるのか。
- ・これから予定している支援などはあるのか。

5. 栽培や活動に関して起こる問題をどのように解決しているのか。

- ・栽培に関する苦労はあったのか。
- ・初期の段階での技術的な問題はどのように対応したのか。
- ・現在の地黄栽培において問題はありますか。あれば対応策は。

6. 今後の展望やこれからの課題は何か。

- ・これからの地黄栽培をどのようにされてゆくのか。
- ・今後の展望や目標などはどうなのか。
- ・更に発展する為の課題などはどのようなものがあるのか。

考 察

(まとめ:市
政に活かせ
ると思われ
る事項等)

【新得町で地黄を栽培した経過】

地元の北海道立新得畜産試験所の中野先生の紹介から薬草の栽培に可能性を感じて5反の栽培を始めたが、秋の収穫前に腐ってしまい失敗。その後富山薬科大学増重先生から本格的に栽培方法を指導されそのご縁で上田市内の製薬会社との契約栽培が実現して今日に至る。

【地元 JA や新得町などの公的支援】

ほとんど何の支援も受けずに対応してきた。富山薬科大学の増重先生を紹介したのが新得町役場であった事だけであった。児玉さんが独自に対応しながら一步步確実に進んできた。

【これからの活動及び計画】

メンバーも特別増やすことも考えずに、毎年上田市内の製薬会社との年間契約量のみを確実に栽培するのみとのこと。

児玉会長は地黄以外の薬草栽培にも挑戦中であり、エキナセア（AIDS やアルツハイマー症などに効果があるハーブ）を栽培中。薬草栽培の新たな可能性を追求している。



地黄栽培ほ場

【地黄の栽培方法】

一反あたり鶏糞と大豆カス、牛糞を半年ほど発酵させた堆肥を栽培上面に敷詰める。寒さに弱いのでマルチを掛けた上に地黄を植えて半球上のドームを更に掛ける。5月に植えて11月には収穫であり、雑草の処理以外特に何の手間無く育つので栽培は難しくないとのこと。

【上田市に活かせると思われること】



栽培2カ月の地黄の苗 手前10円

新得町と上田市は日中と朝夕の温度差があるなど気候的に似ているので上田市でも地黄の栽培は可能である。

市内の製薬会社に確認したところ、以前は上田市でほとんどを栽培していたとのこと。

一反当たりの収穫高が70万円と高額であり、1年で栽培できるので非常に付加価値が高い

農作物である。(昨年米価が1反あたり10.5万円)

また作業の手間もそれほどかからないなど高齢者や障害者の農業生産物としても非常に魅力があり、上田地区でも新しい農業政策の一つとして取り組むべき価値がある。

【考察】

今回の視察で感じたことはやはり北海道の農業は想像以上の大規模農業経営をしていることである。

これだけ有望な地黄がなぜもっと普及しないのかというと、その他の大規模農業製品(バレイショ・ニンジン・酪農など)が一般的であり、広大な土地を大型農業機械で管理する方が効率がよいからである。ほとんどの農家が10町から100町規模と作付面積が非常に大きい(長野県は5反程度)。そのため、JAなどが推進する作物を主に生産していても、収穫単価は低くても生産量でカバーすることで農家戸別の収入が2,000万円以上になるなど裕福な農家が多いため、新たな作物に挑戦する必要は感じないようである。

しかし、逆に考えれば長野の農業は如何に高収益の上がる作物を育てるのがポイントになると考えられ、薬草などの付加価値の高い作物は必要と思われる。

幸い長野県には生薬を活用する製薬会社なども多数存在しているなど、上手く契約栽培に持ち込めれば安定した収入が見込まれる。また、薬草の供給が不安定であり、需要に対して追いついていないので年々販売価格は上昇傾向にあることなど非常に有望な分野である。

平成 24 年度 委員会行政視察実施報告書

委員会名	産業水道委員会
参加委員	渡辺正博 松山賢太郎 小坂井二郎 児玉将男 内堀勝年 滝沢清茂 安藤友博

委員長、副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

自治体が独自に地域産業政策の実施主体として、地域産業の振興に主体的に取り組む必要性が高まっている。そんな中「中小企業憲章」に基づく中小企業振興基本条例「理念条例」を上田市でも制定を進めるべきである。全国的に評価の高い帯広市における中小企業振興基本条例を、つくる経緯から学ぶために実施した。

2 実施概要

実施日時	視察先	北海道帯広市
平成 24 年 7 月 5 日 9 時 30 分 ~ 11 時	担当部局	商工観光部
視察事業名	中小企業者との協働による中小企業振興	
報告内容	<p>1 視察先の概要 帯広市は十勝平野の中央に位置し、農林水産業を基幹産業とする十勝圏にある中核都市として発展してきている。 人口は 170,580 人（平成 17 年国勢調査）</p> <p>2 視察先の特徴 十勝農業を背景に特色ある教育・研究を展開している帯広畜産大学がある。 地域資源である農畜産物などを活かした第二次産業の振興を課題としている。</p> <p>3 視察事項について 事前に 18 項目の質問（研修）項目を先方に通知した。 「帯広市中小企業振興基本条例」制定までの経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中小企業経営者などから、新たな条例制定の要望はあったのか。 ・ 行政を動かした原動力はどこにあったのか、また、行政としての動機付けは何か。 ・ その条例の策定作業を行う「中小企業振興条例の検討プロジェクト」について ・ 条例制定に議会はどうだったのか。 	

	<p>「帯広市中小企業振興基本条例」の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理念 ・ 中小企業振興の基本的方向 ・ 中小企業者等の役割と努力 ・ 行政の役割「市長の責務」 ・ 市民の理解と協力を求める。 <p>「帯広市中小企業振興基本条例」の運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的施策を検討した「中小企業振興協議会」について ・ 同協議会の「中小企業振興に関する提言書」について ・ 提言に基づく「帯広市産業振興ビジョン」について ・ 「帯広市産業振興ビジョン」の施策を推進・チェックする機関「産業振興会議」について ・ 「帯広市中小企業振興基本条例」は地域経済にどのような影響を与えているのか、中小企業経営者は元気か。 <p>三者（商工会議所・同友会・行政）共同</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 条例策定作業から「産業振興会議」まで一環とした中小企業経営者と行政の担当者との共同作業の意義について ・ 共同したことによる具体的施策への影響について ・ 自治体職員と中小企業経営者との信頼関係について <p>今後における地域産業振興の行政課題について</p>
<p>考 察</p> <p>(まとめ:市政に活かせると思われる事項等)</p>	<p>【学んだこと】</p> <p>三つの特徴</p> <p>条例づくりのスタートは中小企業家同友会</p> <p>「中小企業にとって地域は生命線。中小企業振興と豊かな地域をつくることは密接不可分課題だ」という理念で、条例づくりのためのプロジェクトを立ちあげた中小企業家同友会帯広支部。</p> <p>プロジェクトは、商工会議所・帯広市・中小業者や同友会との協働のテーブルとなり「ゼロからの条例づくり」へとつながった。</p> <p>二つの仕掛け</p> <p>協働の取り組みは、さらに「産業振興ビジョン」をつくる政策活動へと進む。そしていま、産業振興会議の小委員会において「地域ブランド化推進の研究」等のほか、小麦など地域特産物を活かした食産業振興など、ビジョンの具体化が進行中で、条例をつくって終わりではなく、動かし続ける仕掛けが、「産業振興ビジョン」であり「産業振興会議」だということである。</p> <p>市長が誰に替わっても責務は不動</p> <p>条例は、7条からなるシンプルなものである。前文を設け理念を明示し、帯広市に限定しない「帯広・十勝の発展」という概念を明確に表現し、第4条では、市長の責務を設け、市長が替わっても市長の責務は変わらないものとし、さらに、6条では、市民の理解と協力を定めている。</p>

【上田市で活かせること】

中小企業家同友会など同列の団体が存在すること。
条例の理念、条例づくりの手順・手法

【考察】

条例の二つの勘所

「できちゃった条例にしないこと」つくって終わりではなく、つくった後どうするのか、つくってきたことのプロセスをどう次に伝えるか。

「条例をどう壊していくか、どう動かし続けていくか」作り始めるところから念頭に置いておき、10年、20年先を見据えて仕掛けを条例に入れ込んでおくこと。

この条例を運用していくには、市長並びに担当部署の並々ならぬ決意が必要と話す担当者。



帯広市役所議会棟前

平成 24 年度 委員会行政視察実施報告書


委員会名	産業水道委員会
参加委員	渡辺正博 松山賢太郎 小坂井二郎 児玉将男 内堀勝年 滝沢清茂 安藤友博
	委員長、副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

帯広市中小企業振興基本条例の制定に商工会議所としてどのように関わってきたのか。そして民間の視点で、評価はどのようにされているのかを直接聞く。

2 実施概要

実施日時	視 察 先	帯広商工会議所
平成 24 年 7 月 5 日 13 時 30 分 ~ 15 時	担当部局	産業振興部
視察事業名	地域産業の振興	
報告内容	<p>1 視察先の概要 会員は、商業が中心で 3,500 社（十勝全体では 10,000 社以上）創立 90 周年を迎えた。</p> <p>2 視察先の特徴 中心市街地活性化基本計画（二期目）の認定を目指して作業を進めている。 中小企業家同友会の呼びかけに応え、帯広市中小企業振興基本条例の制定に加わる。</p> <p>3 視察事項について 事前に 12 項目の質問（研修）項目を先方に通知しておいた。 「帯広市中小企業振興基本条例」制定までの経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな振興条例の制定を目指した理由について ・ 行政への振興条例制定の要請はどのようにされたのか。 ・ 中小企業家同友会・商工会議所・行政の三者のプロジェクトだが、力関係はどうだったのか。 ・ 「中小企業振興条例の検討プロジェクト」を進める過程で何を重要視したのか。プロジェクト参加のメンバーはどのような方か。 <p>「帯広市中小企業振興基本条例」の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「条例」制定に至る過程で評価できることは何か。 ・ 「条例」は満足できるものか。 	

	<p>「帯広市中小企業振興基本条例」の運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な施策議論の場「中小企業振興協議会」の4部会「創業・モノづくり」「経営基盤・人材部会」「交流部会」「産業基盤部会」の検討内容と参加するメンバーや報酬について ・ 施策を推進・チェックする機関「産業振興会議」の2小委員会「十勝帯広地域ブランド化推進研究会」「地域経済リサーチ小委員会」のメンバーや報酬について <p>三者（商工会議所・同友会・行政）共同</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 条例策定作業から「産業振興会議」まで一環とした中小企業経営者と行政の担当者との共同作業の意義について ・ 共同したことによる具体的施策への影響について ・ 自治体職員と中小企業経営者との信頼関係について <p>産業振興施策の実行に当たり市に対する要望は何か。</p> 
<p>考 察</p> <p>(まとめ:市政に活かせると思われる事項等)</p>	<p>【条例制定までの経緯】 商業に関する部分は商工会議所が関わった。</p> <p>【条例の運用】 商工会議所にとって一番の課題は、中心市街地活性化をどう進めるかで、この点では、条例と常にローリングしながら、商業の活性化に関する新しいものを条例に入れ込んでいくことが会議所としての課題である。</p> <p>施策を推進、チェックする機関である「産業振興会議」が十分機能しているのか疑問。</p> <p>【市への要望】 新しい市長は、農業を基盤とした「フードバレーとかち」(国際戦略特区)に力を注いでいて、農業関連の第一次・第二次産業にメリットが多く、商業はその次となっている。条例の理念のトーンが落ちていないのではないかと感じている。</p> <p>【上田市に活かせると思われること】 上田市商工会議所が工業系の会員が多いという点では好条件となる。</p> <p>【考察】 この条例を運用していくには、市長並びに担当部署の並々ならぬ決意が必要と話す担当者の意図するところが理解できた。</p>

平成 24 年度 委員会行政視察実施報告書

委員会名	産業水道委員会
参加委員	渡辺正博 松山賢太郎 小坂井二郎 児玉将男 内堀勝年 滝沢清茂 安藤友博

委員長、副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

豊富な森林資源を中心とする木質バイオマスをエネルギー源に活用することが急がれている。上田市と同じくバイオマスタウン構想を持つ北海道足寄町は、森林面積が町の8割。しかも材はカラマツと、上田市の条件と共通部分がある上に、先進地として「バイオマスタウンあしよる」は評価の高い町であること。

2 実施概要

実施日時	視察先	北海道足寄郡足寄町
平成 24 年 7 月 6 日 9 時～11 時	担当部局	経済課
視察事業名	足寄町バイオマスタウン構想	
報告内容	<p>1 視察先の概要 帯広市から 1 時間 15 分（タクシー）十勝地域東北部に位置している人口 7,596 人（6 月末）の町。</p> <p>2 視察先の特徴 町の森林面積は 1,164K m²（83%）、 新庁舎はカラマツ 5,800 本使って建てた。もちろん暖房はペレットストーブ。 町長から新エネルギー担当の命を受けたスーパー公務員「岩原榮経済課長」（この分野に 10 年以上関わってきている）がいる。</p> <p>3 視察事項について 事前に 11 項目の質問（研修）項目を先方に通知した。 地域資源の柱としての木質ペレットを実用化させた実践「木質バイオマス資源活用ビジョン」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 木質ペレットの普及を目指した「あしよる森林工房」、「足寄町木質ペレット研究会」、ペレットの大量生産ができる工場建設と運営主体「とかちペレット協同組合」、中学校廃校舎を活用した「ペレット工場」建設に至るまでの経緯と行政と民間事業者との関わりなどについて 	



中学校廃校舎を活用した「ペレット工場」



プラントが置かれている旧体育館

- ・ ペレット産業が安定した産業として成り立つかの裏付けはどうか。
- ・ ペレット普及の課題は何か。
- ・ 新産業としてのペレット事業の振興で雇用拡大はどうか。
- ・ 他の産業への波及効果
- ・ 木質ペレットの需要拡大策
- 「足寄町のバイオマスタウン構想」
- ・ 策定作業はどのように進めたのか。
- ・ 「足寄町のバイオマスタウン構想」は「まちづくり構想」であるとする、その理念
- ・ バイオマスタウン「ウッドバレーあしよる」の重点課題
- ・ 短期、中期、長期の仕分けと目標達成の推進工程
- ・ 進捗状況と課題

<p>考 察</p> <p>(まとめ:市政に活かせると思われる事項等)</p>	<p>【理念・人】</p> <p>岩原榮経済課課長は、行政を超えて仲間づくりに関わった。異業種が集まる組織ができたなら仕事を分担し具体的な行動を練る。こうしてできたのが、とかちペレット協同組合である。「バイオスタウン構想」はまちづくり構想で、和をもってお互いに助け合う心を培うもの。ポイントは、エネルギーの地産地消。町民とともに意識改革。垣根を超えて仲間づくりですと言いきるスーパー公務員。</p> <p>【産業振興】</p> <p>「農畜林連携構想」で関連産業の連携による地域振興を考えてきた。とかちペレット協同組合の設立とペレット工場建設、雇用促進事業の実施などで、林産業、農業、製造業、流通業、建設業、サービス業、観光、教育などの分野で 139 人の雇用を生み出した。</p> <p>【木質バイオマスの特化】</p> <p>「新エネルギービジョン」と「木質バイオマス資源活用促進ビジョン」を同時に策定し、地域資源の柱である森林を特化して木質ペレットを実現させた。</p> <p>【上田市に活かせると思われること】</p> <p>バイオスタウン構想がつくってあること。</p> <p>森林資源を活かして木質バイオマスを特化できる。</p> <p>足寄町の「新エネルギービジョン」と「木質バイオマス資源活用促進ビジョン」づくりの委員長は、信州大学の岡野哲郎先生（信州大学造林学研究室（岡野・城田研究室））です。産学官連携の実績がある上田市。しかも研究者が身近にいる。</p> <p>【課題】</p> <p>人材 新エネルギーの専門部署</p>
---	---